2021年秋年末闘争・組織拡大
CTG 建交労道本部闘争速報
2021年11月30日／第10号
〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail／ctg.hokkaido@gmail.com

北海道鉄道本部第22回定期大会

職場の声を大切にし要求実現めざす

11月27日、北海道鉄道本部は委任状を含めて22名の参加で第22回定期大会を開催しました。大会は感染予防対策をとって「リアル」で実施し、道本部の森国委員長から来賓あいさつを受け、全国鉄道本部の相木委員長からは激励のメッセージが寄せられました。

竹田委員長がコロナ禍で活動に制約を受けながらも奮闘した1年間のとりくみを振り返り、最上書記長が運動方針の提案で、職場の仲間から寄せられる声を大切にして要求を実現するためにたたかう労働組合の姿が見えるとりくみなどを提起しました。

討論では、「25日の終業点呼で年末一時金支給率が助役から発表され、各労組の対応について建交労は『持ち帰り検討』と報告されるとざわめきが起こった。現場労働者の思いは一つで組合の存在意義を感じた」との発言をはじめ、ＪＲ北海道のサービス向上について提案への対応の問題、新幹線札幌延伸により並行在来線となる函館本線山線の存廃問題についての質問、赤字を拡大している新幹線によるＪＲ北海道の経営圧迫を心配する発言、トンネル残土問題についての状況報告などがありました。衆議院選挙については「政治を変えるために『選挙にいこう』のとりくみを強化することが大事だ」という発言がありました。

提案された議案は満場一致で確認され、役員体制では竹田委員長（苫小牧支部）、加藤副委員長（小樽支部）、最上書記長（苗穂支部）が再選されました。なお、長年にわたり執行部を支えてきた苗穂支部の佐々木元委員長が執行委員を退任しました。

大会終了後は感染防止対策を万全にとりながら、短時間でしたが２年ぶりに懇親会を開催し、22春闘や夏の参院選にむけて取り組みの強化を確認しあうことができました。

JR北海道の年末一時金 1.67か月分で妥結

エルダースタッフは0.9か月分

北海道鉄道本部は、ＪＲ北海道から年末一時金について11月12日に概況説明（「秋年末闘争速報」No.9参照）を受けた後、11月24日の交渉で社員1.65か月分、エルダースタッフは「２分の１」との回答がありました。これに対し低額回答に抗議するとともに、エルダースタッフなど非正規社員への特段の措置を求めました。この日の夜の交渉では、社員1.67か月分、エルダースタッフなどについて0.9か月分との第２次回答を受けましたが、若年退職に歯止めがかからない状況やエルダースタッフの労働力がなければ安定輸送に影響が出ることも考慮して再々考するよう強く求めました。25日の最終回答で前進は見られませんでしたが、団体交渉のあり方やエルダースタッフの「２分の１」条項についての考え方を示して持ち帰り検討とし、来春闘での要求前進へのステップとする決意をもって26日に妥結しました。

北海道建設アスベスト訴訟 第３陣も国との和解が成立

11月25日、札幌地裁で「北海道建設アスベスト第３陣訴訟」の国との和解が成立しました。第３陣は2020年３月24日に提訴（その後2021年２月３日の第４次まで追加提訴）し、原告患者（22人）のうち直近に亡くなった１人を除いてこの日に和解しました。和解金額は総額で約２億7000万円です。すでに第１陣・第２陣が国と和解しており、これからは和解に応じていない建材メーカーとのたたかいが続きます。